



学校だより

令和4年11月30日

12月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



「子どもの育ちと支援」

校長 加藤 智敏

4年に一度のサッカーW杯の試合が連日のようにTV等で放送され、校長室に遊びに来る子どもたちからも日本だけでなく、「〇〇って国に行ったことがある」とか「◇◇は、小さい国なのにすごく人口が多いんだって」というように、対戦国や出場国についての話を聞くことが多いです。校長室には日本地図のパズルだけでなく、世界地図のパズルも置いてあるので、遊びながら色々な国の話をします。対戦相手のコスタリカなどは、私が以前に暮らしていたパナマの隣国ですので、どのような国なのか、その気候や環境、文化等について話をしました。世界的な行事を通して、世界に目を向けてもらえるのはうれしい限りです。

本校には、様々な国とつながりのある児童が多く在籍します。日本語支援が必要な児童も多数おり、在籍学級の担任や国際教室の担当が連携を密にして、支援の充実を図っています。しかし、日本語支援が必要な児童にとって何よりも大切なのが、周りの児童の支えです。11月25日（金）に公開授業研究会を行いました。講師の先生方や参会された先生方に、子どもたちの学びの姿、子どもが様々なかかわりの中で学び、育つ姿を見ていただきました。各クラスで行われる授業の中で、日本語支援が必要な子どもたちも活躍していました。そこで見られたのは、周りの子どもたちの温かいかかわりでした。発言する際には、その子に体を向け、目を向け、時には温かく頷きながら意見を聴こうとする姿から、あらためて、子どもは授業の中での豊かなかかわり合いや認め合いの中で育つと実感させられました。日本語支援が必要な児童だけではありません。どの子にも配慮が必要です。教職員は、誰もが安心して答えられるような発問を考えたり、発言しようとする子の指名順や、机間巡視の際に寄り添う子どもの順番を考えたりします。指示の仕方においても目の前の子どもの実態をとらえ、より分かりやすくすることも個に応じた支援と言えます。授業や様々な教育活動はまさに特別支援の視点無くして成立しないとも言えるでしょう。

授業のあと、ある先生が「授業中に発言することが苦手だったAさんが、今日発表することができたんです。後ろに座るBさんもAさんを支えてくれました。」と話してくれました。日々支援を続ける先生も、その子本人も、そして、学級の仲間も本当に嬉しかったろうなと思いました。

子ども個々が授業の中で輝き、学級や学校の中で認められるように、また、互いに補完し合って学びを深められるようにするために、私たちは日々支援の在り方を見つめていく必要があると感じました。本校で考える特別支援教育の充実は、子ども一人一人がよりよく育つための教育活動や授業の充実、改善に尽きると言えます。

これまで、このような支援の充実を目指し、保護者、地域の方々、関係機関等の協力を得ながら、教育活動を進めてまいりました。今日も多くの方に集っていただき子どもたちを支援していただいております。また、生活科・総合的な学習の時間（「なかま」の時間）の学習活動を展開する上でも、取材協力やあるときは講師となっていたいただいた、お三の宮地区連合町内会の豊田会長や本校同窓会の菊地会長をはじめ、小俣組の皆様、長沼工務店の皆様、また、地域ケアプラザや諸公共施設、各種店舗の皆様、そして、本校保護者の皆様、子ども一人一人の学びと育ちをともに支援いただきありがとうございます。

2022年も残すところ一か月となりました。まずはご自愛いただき、年を超えても変わらぬご支援、そして「子どもたちのために人が集える学校」の創造にお力添えをよろしくお願いいたします。